

「愛南水研から、こんにちは」



若林 良和先生

(南予水産研究センター副センター長・教授)

愛南町の皆さん、こんにちは。今月号より、皆さんに少しでも本センターを身近に感じていただきたく、センター関係教員がリレー形式で自己紹介を兼ねながら、愛南町への思いなどを連載させてもらうことになりました。では、この企画の発案者である私から始めさせていただきます。

【自己紹介】滋賀県出身、農家の長男です。大学時代まで実家の田植えを手伝っていました。東京の大学では、歴史も勉強しましたが、南太平洋のパラオ諸島で調査したことをきっかけに、カツオの世界に魅了されました。マスコミでは、法学部出身なので「異色の水産社会学者」カツオ漁業研究で博士号を得たので「カツオ博士」と称されています。本センターの社会科学研究部門に所属し、水産業・漁村地域における社会構造や生活文化の学際的研究を行います。ライフワークはカツオをめぐる産業と文化の研究で、カツオ大好き人間です。

【愛南町への思い】私は「一期一会」の言葉を大切にしており、愛南町の皆さんと共に語らいながら、様々な取り組みを進めたいと思います。愛南町とおつきあいは町の合併当初からで、町の依頼（愛南かつおフェアのマーケティング調査）で本格化しました。そして、3年前から、町内の幼・小学校や行政、漁協など水産業界、地域の団体からの温かい支援で、水産版食育の「ぎよしよく教育」を推進しています。「地域に根ざした食育コンクール2006」での優秀賞受賞の感激は忘れられません。また、今年5月には「愛媛県愛南町発」と題した『ぎよしよく教育』という本も刊行しました。当面、愛南町で中心となる私の仕事は、食育による地域活性化です。今秋より「愛なん食育プラン」（仮称、愛南町食育推進計画）の策定が予定されています。これには皆さんの絶大なる協力を得ながら、地域の視点から、住民の目線で健康福祉・教育・産業などの各分野で綿密な行動計画を立てて、愛南町の活性化につながるように全力投球したいと思います。皆さんのご支援をお願いして、挨拶とさせていただきます。



食育コンクール表彰式

◀各書店で販売されています。是非、ご覧ください。